

# 諏訪中央病院とAMDA(岡山)

## 被災地の医療支援で協定

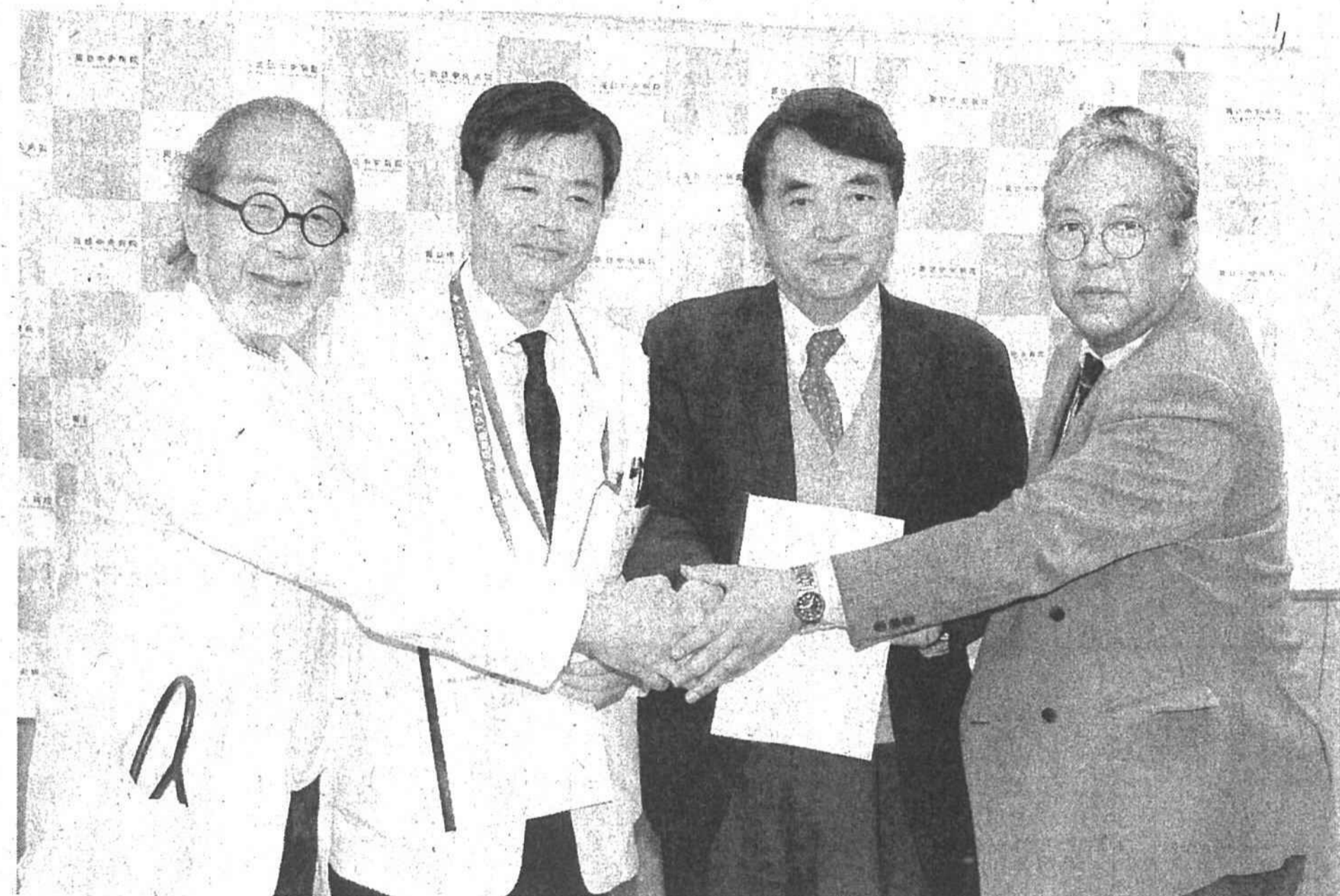
### 南海トラフ地震発生時を想定

### 高知、徳島などへチーム派遣

諏訪中央病院（茅野市）と、国内外で医療ボランティアに取り組む認定NPO法人AMDA（アムダ、本部岡山市）は14日、災害時の連携協力に関する協定を結んだ。

中国・四国地方で甚大な被害が予想される南海トラフ地震発生時、同病院は現地に医療チームを派遣し、AMDAの指揮下で支援活動に取り組む。AMDAと協定を締結した県内医療機関は初めてという。

（唐沢宏）



菅波波吉と名譽院長（中央右）と澤院長（同左）、鎌田名譽院長

大規模被災地で活動する個人・団体を応援する公益財団法人「風に立つライオン」を務める諏訪中央病院の鎌田實名誉院長が、昨年7月の西日本豪雨で被災した岡山県総社市を訪問したのがきっかけ。

南海トラフ地震に備え、広域的な相互協力体制の構築を進めていたAMDAの関係者から協定の締結を持ち掛けられ、院内で検討を進めていた。

協定書によると、諏訪中央病院はAMDAの連絡に基づき、徳島県や高知県などの被災地で医療支援活動に当たる。派遣する医療チームは医師、看護師、調整員の3人一組で、経費は原則AMDA側が負担する。茅野市が災害に見舞われた場合はAMDAが駆け付ける。

同病院で行った調印式で、AMDAの菅波茂理事長は「諏訪中央病院が被災地へ来てくれることは心強い。全国の医療機関へのメッセージになる」とあいさつ。吉澤徹院長は「AMDAと協力して病院を挙げて全力で支援する」と述べた。鎌田名誉院長は「協定すること、どこの医療機関に行くのかが明確になり、泊まる場所や食べ物への心配が全くなかった」と、協定の締結の意義を指摘した。